



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 { (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

92.11.24 No. 3695

動労総連合 第7回定期大会 成功がちとる!!!



動労総連合は、十一月一日、千葉県労働者福祉センターで第七回定期大会を開催し、JR東日本の動労改悪阻止闘争をはじめとする闘いの総括と今後一年間の闘う方針を確立し、圧倒的成功を勝ちとった。

闘う方針を確立！
スト権確立！

大会は、辻川副委員長長の開会のあいさつで始まり、和田山執行委員長の司会にて山田護代議員(千葉・京葉支部)を議長に選出した。

第一日目は、水野執行委員長あいさつと国分執行委員からの一般経過報告、山口執行委員からの労働協約・協定締結報告、布施書記長からの運動方針案提案等を受け、総括質問を行って終了。直ちに隣接の海員センターへ移動し、入浴・食事・交流が、和気合々のうちに、深夜まで行われた。

第二日目は、内山執行委員から財政関係の提案が行われた後、方針をめぐる活発な討論が行われ、一解雇撤回・清算事業・闘争勝利、一カンボジア出兵反対、一佐川「糾弾」宮沢内閣打倒、一R西日本の動労改悪阻止の四本の決議も含めて、一九九二年度運動方針案が確立された。

大会では、一六名中一二名の代議員が発言したが、
① 解雇撤回・清算事業闘争、JR東日本の動労改悪阻止闘争を闘ってきた確信、中労委一和解案一と水戸・千葉地裁判決に対する怒り、
② 動労千葉の物販闘争を闘ってきた苦勞と教訓、
③ 土職登用をはじめとする組合差別粉砕・原職奪還・組織強化・拡大、
④ R西日本の動労改悪阻止闘争、
⑤ 事故多発・運転保安確立、過労死、PKO・反戦・政治闘争の報告と闘争強化、
⑥ 等について意見が集中し、本部答弁も含め活発な討論が展開された。

活発な討論を展開!

「悔いの残らない闘いをしよう」

水野執行委員長あいさつ 西友2日

一年間の闘いごころうさまでした。われわれは、よく闘ったと思う。しかし、過日の動労千葉の大会で、ある解雇者が一自分では、六年前に、国鉄分割・民営化に反対して闘い首を切られた。しかし、その時、まさか六年後に自衛隊が海外出兵するとは思わなかった。まさに、この海外出兵を射程にいられて、分割・民営化・国鉄労働運動解体・総評破壊攻撃が行われていたのだと痛感する一と

発言されたときに愕然とした。まだまだ、われわれは、現在のPKO・海外侵略や国鉄・JRにおける攻撃がいかなる意味を持つのかというところについて、しっかりと見極め、悔いの残らない闘いをし、いかなければならない。そのために、本大会で活発な討論を展開し、方針を確立しよう。

貨物へのあらゆる格差を粉砕しよう!!!

年末手当交渉は、今週にもその額の提示が予想されるなど山場を迎えているが、またも貨物会社は、「経営の悪化」を理由として旅客会社との格差提案を行う動向にあり、予断を許さない状況となっている。

「鉄道貨物の復権」が経済界からも巷間声高に叫ばれる状況にありながら、大

いなる矛盾の溝が横たわり、それが「経営」そのものを圧迫していることを省みず、貨物で働く労働者に全てを転嫁する施策「八〇〇〇人体制」や昇給・手当等の格差に、「解決」の糸口を見いださうとする貨物会社側の姿勢は糾弾の対象でしかない。

真摯に日々、深夜帯などの不規則勤務

を余技なくされている、貨物の労働者の心の叫びを聞け、「分・民」の矛盾を大合理化という生活権を奪う施策の直結を許すな。

貨物への、あらゆる面での格差を撤回させる闘いへ全力で立ちとう。

年末手当の格差を断じて許すな!

1992年度 役員体制

執行委員長	水野 正美	55	千葉
執行副委員長	平岡 誠	44	西本
	辻川 慎一	35	水戸
書記長	布施 宇一	50	千葉
執行委員	山田 敏雄	55	千葉
	田中 康宏	36	水戸
	国分 勝之	31	水戸
	池田 学	31	水戸
	和田山 繁	42	高崎
	出口 威	49	西本
会計 監査員	外岡 弘	31	水戸
	漆原 芳郎	37	高崎
	高石 正博	42	千葉